

鯖江市総合戦略推進会議 第1分科会【要旨】

日時 令和元年10月4日（金）

午前10時から

場所 市役所 4階 第一委員会室

【出席】5委員（欠席なし）

- 1 開 会
- 2 分科会長あいさつ
- 3 議 事
「魅力なる雇用の創出」の改訂について
- 4 閉 会

【配付資料】

- ・ 総合戦略推進会議委員名簿（分科会別）
- ・ 総合戦略推進会議分科会実施手順
- ・ 鯖江市総合戦略体系図

【議事要旨】

▼分科会長あいさつ

会長を務めさせていただきます小松原です。よろしくお願いします。時間が限られている中、皆様の活発なご意見をよろしくお願いします。では、審議に移りたいと思います。事務局から総合戦略体系図等の説明をお願いします。

▼総合戦略推進会議分科会実施手順について

事務局説明。

▼総合戦略基本目標Ⅰ「魅力なる雇用の創出」体系図説明

事務局説明。

▼分科会長あいさつ

資料説明ありがとうございます。では、基本施策、KPI、実施施策、主要な事業等、委員の皆様の質問、意見等いただきたいと思います。

▼委員

「既存産業の高度化」のKPIに「AI・IoT等導入支援事業採択数、令和6年度までに5件」という目標について、自身も眼鏡協会に勤めていた時に導入に向けた検討を行っていたが、導入できる企業・事業所はほとんどいないと感じている。その手前の基礎的な部分、何ができて、何に困っているのかといった調査を外部に委託して洗い出しすることが必要ではないか。いきなり夢を語らずスモールスタートから始めることも大事だと思う。AI・IoT導入支援だけでなく、基礎的な部分の支援、視点にも目を向けるべき。あと一つ、事業承継の都市部人材とのマッチング事業について、非常に賛

成できる事業で、鯖江の地場産業の廃業問題は急務となっている。様々な事情により廃業せざる負えないところもあるかもしれないが、その前に一度全国に向けて事業承継の募集をしてみてもいいのではないか。事業承継者の選別などクリアすべき点はあるが、トライしてみても良いと思う。

▼委員

A I ・ I o t の導入、I T の支援は業界、組合内でも関心を寄せており、納品の遅れや注文に対する受け皿の不足など、市内の事業所、どの分野にも通じる話である。ある企業が地元金融機関と連携して I T システムを開発導入し成果を上げている事例もある。そういう事例を参考しながら、効率化していき、ロスをなくしていければいい。

▼委員

そのとおりで、A I 導入以前の I T の部分の話で、その基礎的な部分の改善が非常に重要。その基礎があって A I ・ I o t だと思うので、基本の部分の底上げをどうするかだと思う。

▼委員

成功事例を市内企業で試していくことから始めて、実装につなげていく、見える化していく作業をやっていこうという機運が組合内でも高まってきている。

▼委員

自身の職場でも、生産性向上の観点から、例えばペーパーレス化、データ化など I T の活用を進めている。外部のコンサルに委託し、生産性の低いところ、どこが非効率なのかを洗い出ししてもらった。お二人が言っているとおり、高度化も重要だが生産性向上を目指していくといった視点もあっていいと思う。

▼委員

そういう I T 化、オンライン化、情報共有、生産性の向上といった取組みを鯖江市全体ですることにより、魅力ある企業が増え、若者の雇用にも繋がってくると思う。スマート農業なども若者にとって魅力を感じる取組みではないかと思う。

▼委員

見える化することは大事で、齋藤委員が言われたとおり、若者に対して将来性かつ魅力ある企業に見えてくると思う。

▼委員

スマート農業を実践してみて、やはり当初、基本的なパソコン操作に苦慮した。それを補うため、中小企業である程度キャリアの積んだ経験のある女性 2 名の採用を考えている。男性は実務に追われて忙しい。事務管理の大切さ、重要度が増している中で、どの産業も一緒だと思うが、優秀な人材をシェアする、あるいはグループ化しながらやっていくことが大事だと思う。

▼委員

人材のシェア、特に優秀な人材のシェア、例えば 4 ～ 5 社でシェアする考えは非常に大事。各社、一週間に一度くらいのローテーションでやりくりしていくなど方法は色々

ある。

▼委員

エコファームでも週3日ほど来てもらうような採用を考えている。

▼委員

先ほどのシステム開発の話も、何社も絡めて共同開発するといったことも視野に入れてやればいい。来年の5Gの時代に入ると、さらに重要となってくる。

▼員

農業だけではなく、どの業種も発注や納期など、一連の流れは一緒だと思う。

▼委員

菜花米が現在の規模になるまで、どれくらいの年月がかかったのでしょうか？

▼委員

最初導入したのは他の生産者でエコファームではなかったが、うちに導入してからは7年が経過した。

▼産業環境部長

最初は別の生産者だったが、200㎡からスタートした。

▼委員

スマートグラスにおいても、あるベンチャー企業が佐賀県の大学と連携して、遠隔操作による食物栽培の取組みをスタートさせた地域もあり、鯖江市においても実証実験を重ねて、鯖江ならではのものができればいい。

▼委員

菜花米の取組みを含めて、北陸新幹線が開通した時が一つチャンスになると思っている。また、農業も後継者がいない。エコファームは一人目途が立ったが、後継者不足、それから、楽しくてもうかる農業のためには、農業の所得向上も大きな問題である。他産業と比べて極めて労働単価が安い。他産業並みの労働単価が補助も含めて必要。さらに収穫量も自ずと決まっているので、生産性が極端に上がることはない。その限られた収穫量で、いかにして稼ぐか、そのためには自販を考えていかなければいけない。

▼委員

例えば、SNSの活用、クラウドファンディングなどで毎年、新米を贈ってファンを獲得していくなど、新たな取組みも必要ではないか。

▼委員

他市町での若者の農業体験に関するニュースがあったが、そのようなきっかけ作り、場を設けるなどはどうか。後継者不足解消にもつながると思うが。

▼委員

受け入れ側に余力がないと難しい。体験受入するための農地が必要だが、その分だけ収穫量は減って、収入も減ることになる。なので、余力がないと厳しい。

▼委員

今の一連の話を聞いて思ったが、総合戦略の体系図を見ると、自らが売っていく・自

販していくといった文面はないように感じる。そういうことも目指していくべきかと思う。

▼委員

そのとおりで、自販という方向に進んでいかないと楽しくてもうかる農業にはならないと思う。さらに世界に向けて売っていくという視点が必要である。

▼政策経営部長

6次産業化については若干記載されてはいるが、なかなか鯖江市での6次産業化のイメージが正直湧かないところもある。

▼委員

6次産業化、そして、どういう物が売れるか、どうやって売っていくかだと思う。昔と違って今は売り方にも制限がないので、JAに任せず、自販でも十分収益を得られる。また話は戻るが、スマート農業の導入により、女性の農業への参画促進につながる。農業機械の自動化により男性、女性問わず作業ができる。

▼委員

それによって、後継者不足の解消にもつながる。また、改めて「AI・IoT等導入支援事業採択数」のKPI目標値5件について話を戻すが、5年で5件なので、1年で1件ずつ、それら圧倒的に進んでいる5社を作ることも大事かと思うが、これまでの意見を鑑みると、基礎的な部分の支援も、例えば調査レベル程度の会社も含めて10社とか20社とか目標に掲げて良いと思う。

▼政策経営部長

行政の立場として、5件という目標は補助金支援の採択数を目標値に掲げている。導入編の目標値については、どのような支援が考えられるか、その考え方によって数値も変わってくると思うが、委員の意見を参考しながら検討させていただく。一つ瀬戸川委員にお聞きするが、スマート農業は普及していきますか？

▼委員

していくと思う。人手、後継者が圧倒的に不足している。なので、今エコファームでやっている実証実験を踏まえながら、技術等確立されていけば、4～5年で浸透していくのではないかと。ただ、スマート農業導入には多額の資金が必要なので、その部分をどう支援していくか。国も相当力を入れていると思うので、心配ないと思う。

▼政策経営部長

国の本気度については、市でも感じている。財政面において、地方創生推進交付金の交付の際、Society 5.0に関しては申請条件を一部緩和するとしており、また人材面においても、民間からデジタル専門人材を派遣する運用を開始する予定とのこと、地方を巻き込んでこれから大きく展開していくと思われる。ただ、なかなかSociety 5.0の社会がどんなものと言われるとイメージが付かない。住民票一つ考えてみても、住民票を市役所に取りに行かなくなる、さらには住民票自体がそもそも必要なくなる社会を目指していくものだと思うが、どこから、どのように取り組んでいか

なければならないかとなってくると見えにくいところもある。そういう意味では、スマート農業は非常に分かりやすく、ドキドキワクワクする取り組みだと思う。

▼委員

そのためには、今エコファームで実証実験しているが、自動運転など技術面の改善、向上が必須である。まっすぐ走行させるだけでも相当時間がかかる。今回の実証実験で得た知見を基に改良を加え、より省力化したものに仕上げていくためにメーカーにも、どんどん意見していきたいと思っている。

▼委員

話は変わるが、「女性が輝くまちの創造」のK P Iに「女性就業率と共働き世帯率」の2つについて向上を目指していくとなっているが、今色々な価値観の中で、育児や家事に専念する女性もいれば、仕事を頑張る女性もいて、多様な生き方がある。結果的に女性就業率が上がることも自体は良いことかもしれないが、他の価値観を持っている女性に対して、あなたの価値観は間違っているというメッセージを発しているとも取られかねない。共働き世帯率も同様で、専業主婦の価値観の否定につながるものと思っており、目標値として適切ではないと個人的には感じている。

▼委員

既に鯖江市では十分成果が上がっており、就業率や世帯率の数値を挙げなくても良いと思う。地場産業の発展には女性の就業は不可欠であり地域として培われてきた。

▼政策経営部長

鯖江市は家内工業が多く、労働力という夫婦、祖父母揃って従事するといったところが多い。そういう意味で女性の働き手として役割が重要で地域特性として培われてきた。

▼委員

たしかに福井県は女性就業率など全国1位だが、それは結果として出た数値であり、そこを目指してきたわけではないと思う。先ほどからA I ・ I o tやスマート農業の話をしてしたが、スマート社会が進めば進むほど就業率は上がらなくもいいということの裏返しであり、たしかに今まで色々な社会的制約で女性の地位や活躍が阻まれてきたといった意味合いがあることは十分承知しているが。

▼政策経営部長

おっしゃるとおり、専業主婦で頑張る、キャリアを目指すなど色々な生き方、価値観のある中で、外で能力を発揮したいと考える女性が、男性社会や地域社会が女性の働き方を理解することにより、女性自身の能力を外で発揮できる社会を目指したいという思いも込めている。

▼委員

その意味合いを求めるのであれば、この目標値ではなく、例えば、18歳以上の女性を対象に「自分の能力を社会に対して、十分に発揮して生きがいを持って生きられていますか」、「はい、いいえ」でアンケートし指標化すると良いのではないかと。

▼委員

その潜在力は鯖江には既に備わっている。

▼政策経営部長

第1回の総合戦略推進会議において、秋庭委員の「鯖江市は労働意欲が高い女性は多いが、ステップアップしたいという意欲のある女性は少ない。」という意見が非常に印象に残っており、これが一つキーワードになるのではないかと感じている。女性の労働力いわゆる量は満ち足りているが、質が伴っていない。これからは男性の意識や地域社会の意識を変えて、質、中身の引き上げについて考えていかなければならない。

▼委員

そういう意味では、現在の就業率などの指標はまさに量であって質ではないと思う。

▼事務局

「女性が輝くまちの創造」項目欄の一番上に記載されているのが、誤解を生んでいる原因ともなっているので、表記順について検討したいと思います。

▼政策経営部長

一方で、家内工業が多いという実態を踏まえた女性労働力の観点をどうクリアしていくかも必要である。

▼委員

例えば男性の育児や家事の参加など、女性が働きに出られる環境づくり、また、多様な価値観の中で、女性が能力を全て発揮でき楽しく輝いているかという視点、どちらも必要である。

▼委員

その意味でワークライフバランスが重要で、今はワークワークになってしまっている。ワークライフバランスの推進を中心に据えて、先ほどから出ている質的部分の指標があっても良いと思う。それと、自身の職場でも女性の管理職登用率を上げるために意識調査をしたが、管理職を目指したいと回答した者は少なかった。家庭と両立してほどほどに仕事をしていきたいという考えが多かった。

▼政策経営部長

ただ、男女共同参画プランの改訂に向けた市民アンケートは既に収集しており、そのアンケートにはその項目は設けていない。新たにアンケートを取るとなると厳しい面はあるが、女性就業率や共働き世帯率を高めればいいのかといった議論、意見は、以前から頂いていたので検討させていただきます。

▼委員

ワークライフバランスがきちんと出来ていないと家庭が崩壊してしまう。

▼委員

自身の職場でも女性管理職を増やしたが、家庭崩壊を招いてしまったケースが実際あった。無理に実施すると歪みが生まれてしまう恐れもある。

▼委員

家庭の理解、本人の意欲などがきちんと形成出来ていないと、そのようなケースが起きてしまう。

▼産業環境部長

家庭崩壊の話で言うと、さらに子どもへの影響、教育への影響にも派生してしまう話で、色んなところに歪みが生まれてしまう。

▼委員

子どもたちに聞いても、親との会話が少ないと答える子どもが多い。女性の就業率を上げようと言うだけでは駄目だと思う。

▼事務局

委員の意見を参考にさせていただきます。

▼政策経営部長

今、市で取り組んでいる「わたしの日プロジェクト」も今のような指摘、視点から生まれた事業となっている。また話は変わるが、基本施策「眼鏡のチタン加工技術を活かした新産業の創造（横軸の拡大）」、「既存産業の高度化（縦軸の拡大）」の表記について、既存産業の高度化については今ある産業全般を高めていこうということに対し、横軸は眼鏡のチタン加工技術に特化して記載がされている。これはこのままでも大丈夫なのか、委員の皆様のご意見を伺いたい。

▼委員

漆器などにもタンブラーの開発など新分野に進出している。一つ確認ですが、これはチタン系にのみ施策展開されているのか？

▼事務局

いえ、色々な分野に及んでいます。策定当時に注目され勢いもあり鯖江らしさを出すために、このような表記になりました。チタン加工技術は実際他にはない加工技術なので。

▼委員

眼鏡の加工技術自体が鯖江だけなので、チタンに特化しなくてもいいのではないかと。

▼事務局

眼鏡に限らず、漆器、繊維などでも当てはまると思うので、例えば「地場産業の技術を活かした」に変更しても問題ありませんか？

▼委員一同

異議なし。

▼事務局（課長）

それでは、時間も過ぎてまいりましたので、皆様の意見を参考に修正を加え分科会長と相談しながら次回推進会議に素案として提示させていただきます。また、一つ提案として表紙について、皆様からの「鯖江からいったん外に出たとしても、いずれは鯖江に戻ってきてくれる」といった観点から人口ビジョン、施策を考えていくと良いとのご意見をいただき、自分なりに考えてみたのですが、今、市ではハーフバースデー事業とい

うものを展開しています。赤ちゃんが生まれてから半年後に必ずフットプリント、足型を取るという事業ですが、例えばその小さかった足型が成長し、色々旅をして、改めて鯖江に戻ってくる、そしてお年寄りになってもみんなと安心して暮らせるといったイメージの表紙など、あくまで例の一つですが、戦略の中身が良いものでも手に取っていたくための表紙の工夫があってもいいのかなと感じています。

▼委員

分かりやすい表紙がいいと思います。

▼委員

見出しに鯖江らしいキャッチフレーズがあると良い。

▼事務局

分かりました。参考にさせていただきます。

▼産業環境部長

最後に一つ確認ですが、山岸委員が言われた廃業前の全国募集の件について、市がやるべきなのか、商工会議所を絡めてやったほうがいいのか、市の総合戦略なので、市が主体となってやるべきなのか、どのように考えていますか？

▼委員

連携しながら取り組んでもいいだろうし、市が主体的でもどちらでも良いと思う。

▼委員

事業所等の横のつながりもあると思うので、商工会議所や私どもの金融機関のネットワークを使うなど、色々な方を巻き込んだ方がいいと思う。

▼委員

この手の話は発信力が全てなので、どう発信力を広めていくかだと思う。

▼委員

色々な方を巻き込んだほうが良いと思う。

▼政策経営部長

事業承継側の資金力はやはり必要か？

▼委員

そこまで特段求める必要はないと思う。全てを買い取るという形だけではなく、例えば、社長職を引退して会長となり、事業承継者が社員あるいは社長になるという選択肢もあっていいと思う。なので、資金力が必ずしも必要ではないと思う。

▼委員

金融機関の融資という側面もある。

▼事務局

事業承継の募集について、例えば眼鏡会社の承継に対し、引き続き眼鏡関連企業のための募集とするか、どんな相手も受け付けるのか、この辺りはどう考えますか？

▼委員

相手先は絞らない方がいい。どんな相手もOKの方が絶対良いと思う。

▼事務局

既存産業を減らさないという観点も大事だと感じています。

▼委員

たとえ異業種が承継したとしても、いきなり違う業種に変わってしまうということは非効率だし起こらないと思う。その技術を活かした新分野への変更は考えられるが、むしろ、それは今から求められていくものでもあるので大丈夫だと思う。

▼事務局

それでは、いただきましたご意見については、基本施策、K P I，実施施策、主要な事業、あるいは説明文の中になど、事務局にて素案を作成し分科会長と協議しながら、次の会議にご提示いたします。その次の会議につきまして、11月11日または12日のどちらかで考えており、日程を調整の上ご連絡いたしますので、よろしくお願いします。本日はありがとうございました。

【第1分科会 まとめ表】

①「A I ・ I o t 導入支援」の前に事前準備の伴走（I T 運用能力U P）

↳ 高度化よりも生産性向上を目指す

②「事業承継」 廃業する前に全国募集や
魅力を発信→若者に対して

③人材シェア 1社でなくグループで必要な人材シェア
(スマート農業を男女で支えるなど)

④5 G 時代に向けて まず必要なものはブランド力 (味、品質に自信あり)

⑤女性活躍の指標のもち方→就業率を掲げるのはちょっと違う→すでに潜在能力あり
(量ではなく質)

↓

能力が発揮できているか？→発揮できる環境整備を指標に

⑥チタン加工に特化せず、他の産業においてもこれまでの技術を新しい展開へ